

代表質問

2月定例会では、6つの会派が代表質問を行いました。代表質問を行った会派の名称、発言順及び発言時間は次のとおりです。

公明党(180分)、創生市川(165分)、日本共産党(135分)、無所属の会(135分)、自由民主党(105分)、清風いちかわ(105分)

※2次元コードから代表質問の動画をYouTubeにてご覧いただけます。

無所属の会



増田 好秀 さとうゆきの

長友 正徳 秋本のり子

越川 雅史

デジタル地域通貨の導入

問 デジタル地域通貨を導入している自治体の多くは、自主財源を用いることなく、国からの財源で事業を展開しているが、本市は八幡工リア限定の3カ月程度の実証実験だけで、約2・1億

円の支出を見込んでいる。今後、市内全域に拡大する場合でも、仮に自主財源での実施となれば、数億円から十数億円の支出となるものと思われる。市の財源が心配される。そこで、実験直後の検証1回だけでなく、一定期間を置いた上で、改めて複数回、評価項目に基づき検証を実施することで、

日本共産党



清水みな子

廣田 徳子

金子 貞作

やなぎ美智子

高坂 進

国民健康保険の引き上げ

問 国民健康保険事業による赤字が毎年約14億円発生していることから、半額の約7億円を補填するために、令和6年度から国民健康保険税を引き上げることが本市国民健康保険運営協議会

に諮問された。この諮問では、8年度以降も保険税を引き上げていくとのことだが、現状でも高額であると市民は負担に感じており、更なる引き上げには納得できない市民も多数いると考

答 6年度に保険税が見直しをどう考えているのか。

検証結果の信頼性を担保すべきと考えるが、このことについて、市の認識を問う。

答 検証する項目のうち、実証実験の参加者が、デジタル地域通貨などを使用した店舗で継続的に買い物や食事を行うようになったかなどの項目は、実証実験が終了した直後だけではなく、継続的に調査することで、課題も含めて、様々な発見があるものと認識している。このことから、継続的な調査については、必要性があるものと考えている。

パワハラ 申告強要事案

問 刑事訴訟法第239条第2項は、公務員による告発義務を定めているが、公

務員が告発を行うか否かは、犯罪の重大性、犯罪があると思料することの相当性、今後の行政運営に与える影響等の諸点を総合的に慎重に検討して判断するものとされている。パワハラ申告強要事案において田中市長は、首謀者とされる4人の責任を問うことなく、退職金を満額支給し、刑事告発を見送るという方針を示しているが、市は同義務に基づき4人の告発を行うのか。また、今後においても、上司・上長が職務に関する優越的な関係を背景として、業務上必要かつ相当な範囲を超えて、部下が自らの意思に反する形で、何らかの行動を強いられる場合であっても、公平性に重きを置く田中市長が市長である限

り、加害者である上司・上長はその責任を問われることなく、退職金を満額受領することができ、刑事告発を見送られるのか。

答 現時点において、刑事告発する考えはない。また、法的に間違っていることがあれば、それを追及していく必要がある。過去にとらわれることなく、新しい市川市を共につくっていくことを強く望んでいる。

宮田小学校の建て替え

問 宮田小学校の建て替えについては令和8年度以降まで、少なくとも3年間は先延ばしになるとの変更案が市から示されている。5年2月15日時点では、新校

舎推進会議委員も含め地元住民の多くが何ら説明を受けていないが、このまま地元住民の声や新校舎推進会議委員の意見を聞くことなく変更案を進めていくことは大きな問題に発展するものと懸念される。また、パブリックコメントを実施し、市民からの意見を募集することのだが、地元住民の数は限られており、その意向に反したとしても市全体で多くの人が支持さえあれば、変更案を進めていくというのは丁寧な対応といえないと思うが、このことについて市の考えを問う。

答 学校の建て替えについては、地域の人たちからの求めに応じて丁寧に対応していく。なお、宮田小学校の問題についても丁寧

別に対応していきたい。



建て替えが延期された宮田小学校

パワハラ対策

問 議員からのパワハラ

問題について、前市長が自身の権限をもって、自分の利益のために行政の職員を使うという、通常では起こりえないことが現実で起きてしまった。今後、二度とこのような問題を起こさないために、政治家として活動してきた市長が政治的な倫理をしっかりと守る必要があるとともに、本市の職員も市民の利益を守るとい

う点で倫理を守っていく必要があると考える。同じ過ちを繰り返さないようにするための本市の対策を問う。

答 今後、議員と職員との間において何らかのトラブルなどがあつた場合には、直ちに上司、副市長及び市長に報告や相談をするよう徹底していく。また、議会と理事者との間に不信感や

北下瓦窯跡の公開

問 北下瓦窯跡は下総国分寺建設の際につくられた専用

の瓦窯跡である。下総国分寺は中央集権による強い力で遠方から技術者を集めて瓦を焼いていたのではな

いかといわれており、このことは、北下遺跡が歴史的にも重要であることを示している。北下遺跡の意義を明らかにすることは、本市の責務だと考えるが、現在、北下瓦窯跡は埋め戻されて

おり、窯跡の様子を見ることができない状況となっている。本窯跡の将来的な市民への公開方法などは、どのように考えているのか。

答 埋蔵文化財は後世まで保護するために、原則、発掘調査で出土してからは土の中で保存するものであるが、本窯跡を掘り出して、樹脂で固めることで公開できるようにする方法もある。しかし、運用経費が高額なことや樹脂によりその後の調査が十分にできなくなるなどのデメリットもあるため、具体的な保存方法については様々な案を検討していく。歴史的価値を市民と共有する視点に立ち、訪れた市民が本市の歴史に興味を持つことで郷土愛が育まれるきっかけとなる整備を

目指していきたい。



埋め戻された北下瓦窯跡の様子